

# 草原再生における現状と課題 —研究者と市民の視点から—

日本生態学会第64回全国大会(2017年3月東京)  
自由集会 W08 3月14日 18:00-20:00 |会場

## 開催趣旨

ススキ群落などの半自然草原は全国的に減少しているが、とくに東日本では管理放棄による草原の減少が著しい。草原を良好な状態で維持していくことは、そこを生息地とする絶滅危惧種の保護や、生物多様性の確保などの観点からも重要な課題になっている。このような状況から、荒廃した草原の再生をはかり、保全していこうとする地域も多い。草原を再生する試みは行政や研究者が参加して大規模におこなわれる場合もあるが、市民レベルで小規模な管理作業が実施される場合も少なくない。そこで本集会は、東日本で草原の再生・維持管理などを市民レベルで実践している団体に集まっていただき、それぞれが抱える問題点や課題のほか、うまく進んでいる状況などについても情報提供していただくことにした。たとえば、「研究者の参加がなく、科学的な裏付けがないままに事業を進めている」とか、「行政が関わらないので大規模なことができない」、「高齢化が進み、必要な人手が集められない」など、地域ごとに抱える問題はさまざまである。また、生態系や種の保全・保護、文化や景観の継続、茅(屋根材)の確保など、地域ごとに目的も異なっているし、再生・管理の方法も、刈り払い、火入れ、放牧など多様である。地域ごとの個別の課題でも、参加者全員が共有し同時に議論することで、失敗の繰り返しを回避したり、計画を実現できなかつたりする状況を少なくすることができるだろうし、それぞれの地域が目指している草原再生に役立つと期待される。

この自由集会では、それぞれの地域で活動実践している団体や研究者にお集まりいただき、草原再生の現状や課題について紹介していただく予定である。

企画責任者：津田智・増井太樹(岐阜大・流域圏センター)

※本資料は自由集会用の資料であるため、許可なく公表することを禁止します。

# 1.寒風山の草原



## 基本情報

草原の場所	秋田県 男鹿市
草原の名称	寒風山
草原の主な植生	シバ・ススキ・ササ
草原の広さ	130ヘクタールくらい
活動団体	男鹿市
設立年	—
草原の維持活動開始年	2003年 (山焼き開始年)

## 今後の活動予定

寒風山実験山焼き  
2017年4月22日(土) 予定  
申し込み期限  
特にありませんが、  
詳細はHPで確認してください  
申込先: 岐阜大学 津田研究室

## 特徴的なとりくみ

- ・かつては地域住民に利用されていたが、次第に観光目的として草原が利用されるようになった。2003年からは草原景観維持のために男鹿市により山焼きが実施されてきた。
- ・2016年から男鹿市が山焼きを行わなくなったため、2017年は津田研究室の実験として小規模な山焼きを実施する予定である。

## メモ欄

### これまでの調査・研究のとりくみ

- ・男鹿半島の植生 男鹿半島自然公園学術調査報告書(宮脇昭 1973)

津田研ホームページ: <http://www.green.gifu-u.ac.jp/~tsuda/>

# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 野焼き

- ・面積: 60ヘクタール(ススキ・ササ45ha, シバ15haを交代で火入れ)
- ・実施時期: 4月上旬
- ・参加者: 自治体関係者, 消防団 (100人以上)
- ・活動の担い手の構成: 若:中:壮:老 = 2:5:3:0

### 草刈り

- ・面積: 130ヘクタール(草刈りは毎年実施するが, 面積と場所は当該年度の予算しだいで変動する)
- ・実施時期: 夏から晩秋まで
- ・参加者: 自治体から委託された人夫 (のべ100人以上)

### 草原の概況

- ・山地または丘陵地
- ・ススキ群落(2000年ころに管理放棄され10年ほど前には藪化していた)
- ・管理目的: 景観の保全
- ・活動資金: 自治体の予算 計100万円以上(野焼きのみ), 草刈りはおそらく数100万円

## ■ 研究者の参画について

- 現状: 1グループの研究者が参加している(保全活動にも参加:0, 継続利用:1, 一時利用:0)
- ・研究者の専門分野: 植物
  - ・研究者が必要とされている感じはしない.

## ■ 総合的な評価と課題

うまくいかないのが市としての活動は中止になった(野焼きに関して)

- ・野焼きによる管理は天候によってたびたび中止になったため2016年から男鹿市が野焼きを中止した.
- ・野焼きの影響がはっきりする前に中止されたため, 2017年度から研究者による小規模な野焼き実験を計画中.

山焼き実験の実施が決まりました(2017.4.5 津田追加)

## 2.安比高原



出典: 安比高原ふるさと倶楽部Facebook

### 基本情報

草原の場所	岩手県八幡平市 安比高原
草原の名称	中のまきば, 焼野のまきば, 奥のまきば
草原の主な植生	シバ、ススキ、ササ
草原の広さ	数ヘクタール
活動団体	安比高原ふるさと倶楽部
設立年	2013年
草原の維持活動開始年	2012年

### 今後の活動予定

未定  
例年6月ごろから活動するため、  
HPを確認ください。

### 特徴的なとりくみ

- ・古くから馬の放牧が盛んで広大な芝草原が広がっていた。しかし、馬が放牧されなくなったことでシバからススキへと植生が変化した。そこで、草原で馬の放牧や火入れをおこない、草原の維持とともに岩手の馬の文化を残すことを目的に活動している。
- ・ただ馬を飼育するのではなく、馬に仕事をさせる(役割を与える)ことでその価値を高めることを試みている。

### メモ欄

これまでの調査・研究のとりくみ

安比高原ふるさと倶楽部ホームページ

<http://www.hachimantaishi.com/~appifurusatoclub/index.html>

# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 野焼き

- ・面積: 数ヘクタール
- ・実施時期: 10月下旬
- ・参加者: ボランティア, 市町村, 地域住民, 森林管理署 (10-50人)

### 草刈り

- ・面積: 数ヘクタール
- ・実施時期: 6-10月 断続的に実施(年1回刈り)
- ・実施主体: 市町村, 安比号限ふるさと倶楽部(市の委託事業) (10-50人)

### 放牧

- ・面積: 5-10ヘクタール
- ・家畜種類: 馬4頭
- ・放牧時期: 6-10月
- ・実施主体: 安比高原ふるさと倶楽部(JA助成金)
- ・協力団体: 遠野馬搬振興会

活動の担い手の構成: 若:中:壮:老 = 0:2:3:5 (100人くらい不足)

- ・地元で人口減、高齢化が進んでいることから地元からの参加者が減少し、かつ高齢化が進んでいる
- ・粗食に耐える在来馬の確保が難しい
- ・放牧の経験者が必要
- ・外来種の駆除などやるべきことはたくさんあるが、人手とその管理のための人員が少なすぎる

### 草原の概況

- ・山地または丘陵地(約1000年前から草原として利用)
- ・ススキ群落, シバ群落, ササ群落(1985年ころに管理放棄され2006年から管理を再開)
- ・管理目的: 希少種(オキナグサ, キキョウ)の保全, 生物多様性の保全, 景観の保全, 文化の継承
- ・その他の活動: 外来種の駆除, 自然観察会, 学術研究, レジャースポット
- ・活動資金: 自治体の助成金, 民間の助成金, 組織の予算 計100万円以上

## ■ 研究者の参画について

現状: 4グループの研究者が参加している(保全活動にも参加:3, 継続利用:2, 一時利用:2)

- ・研究者の専門分野: 植物, 動物, 昆虫, 環境, 畜産, 文学
- ・科学的で合理的な管理をおこなうために研究成果や助言は今後とも必要なので研究者の参加を希望する。

## ■ 総合的な評価と課題

うまくいっていないが継続していく

- ・在来馬減少で確保が難しく, 長期的展望が立てにくい。
- ・草原管理のきっかけとして在来馬そのものを増やす方策が必要。
- ・人手不足のため, 火入れを秋に行わざるを得ない状況。雪解け後に実施するような体制の整備が必要
- ・人口減、高齢化のため, 地元からの参加が減少しつつある。都市住民の協力が必要
- ・研究者の協力によりようやく科学的な知見が得られ始めた。
- ・継続して参画したいいただくための仕組み、体制の整備が必要
- ・組織の体制が弱体であることから, 法人化等による強化が必要
- ・ススキなどの有効活用を行う必要があるが, 行き先が見つからない(かやぶき屋根資材, 馬の刈敷きなど)

## ■ この集会でアドバイスがほしい

- ・地域住民などによる活動は短期的には何とか続けられる可能性はあるが, 中長期的にはほとんど期待できない。
- 世界, 国レベルの貴重な自然であれば優先的に行政レベルでの保全対策が行われる可能性があるが, 地域レベルのそれも後発の保全対象は, いずれ近い将来管理ができなくなる可能性が高い。
- ・長期的な視点に立ち, 残すべき半自然草原を絞込み, 集中して管理を続けるという選択が必要になる可能性が高い。
- ・中長期的な見通しを立てて保全活動を実施している事例があれば教えていただきたい。

# 3.土呂部の草原



## 基本情報

草原の場所	栃木県 日光市 土呂部
草原の名称	土呂部採草地
草原の主な植生	ススキ
草原の広さ	2ヘクタールくらい
活動団体	日光茅ボッチの会
設立年	2013年
草原の維持活動開始年	2014年

## 今後の活動予定

随時、日光茅ボッチの会Facebookにて公開予定

<https://ja-jp.facebook.com/kayabotti/>

## 特徴的なとりくみ

- ・かつては茅場(地元ではカッパと呼ぶ)として地域住民に利用されていた。茅や草は秋に刈り取られ、「茅ボッチ」と呼ぶ束にした状態で干された。たくさんの茅ボッチが並ぶ様子は、里の秋の風物詩となっていた。
- ・わずかに残されている草原の「茅ボッチのある風景」を維持し、草原の生き物たちを守る活動を展開している。

## メモ欄

### これまでの調査・研究のとりくみ

- ・栃木県栗山村の採草地植生(高木ら2002 筑波大学農林技術センター演習林報告 18号)
- ・栃木県日光市土呂部における半自然草原の管理放棄に伴う植物種ごとの欠落パターン (日本生態学会第64回全国大会)

日光茅ボッチの会ホームページ: [nikko@kayabotti.jp](mailto:nikko@kayabotti.jp)

# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 草刈り

- ・面積: 2ヘクタール
- ・実施時期: 10月上旬 (1年1回刈り)
- ・参加者: ボランティア (のべ50人)
- ・参加団体: 森林塾, 宇都宮大学サークル「さとびと」, 日光市地域おこし協力隊
- ・活動の担い手の構成: 若:中:壮:老 = 2:4:3:1 (100人くらい不足)

### 草原の概況

- ・山地または丘陵地
- ・ススキ群落(2000年ころに管理放棄され10年ほど前には藪化していた)
- ・管理目的: 希少種の保全(●●●●, セイタカトウヒレン, ●●●●, スズサイコ, ●●●●など)

公開に先立ち、一部の希少種を隠しました(2017.4.5 津田修正)

生物多様性の保全, 景観の保全, 文化の継承

- ・その他の活動: 食害防止柵の設置, 文化景観(茅ボッチ)の保全, 枯れ草の焼却, 遊歩道整備
- ・活動資金: 自治体の助成金, 民間の助成金, 組織の予算, 委託費, ポケットマネー計10-50万円

## ■ 研究者の参画について

現状: 2グループの研究者が参加している(保全活動にも参加:1, 継続利用:2, 一時利用:2)

- ・研究者の専門分野: 植物, 昆虫

## ■ 総合的な評価と課題

うまくいっていないが継続していく

- ・保全対象としたい草原は5ヘクタールだが人員不足のため全体をカバーできない.
- ・地元の土地所有者はいずれも高齢で,  
土地が相続された時に同様の協力を得られるか不透明.
- ・15年ほど前にヒノキが植林され, 草原が分断されている.

## ■ この集会でアドバイスがほしい

- ・人工林化した範囲を草原に再生する際の課題, 問題点などが知りたい.  
⇒費用をかけて人工林化した所有者に対してどのようなフォローが必要か.  
⇒技術的な課題はあるか.  
⇒草原植生の復元の可能性はあるか.
- ・保全対象地の所有権を取得したケースがある場合, その取得手法や財源,
- ・その他の課題について知りたい.

## 4.上ノ原の草原



### 基本情報

草原の場所	群馬県 みなかみ町 藤原地区
草原の名称	上ノ原
草原の主な植生	ススキ
草原の広さ	5ヘクタールくらい
活動団体	森林塾青水
設立年	2000年
草原の維持活動開始年	2002年

### 今後の活動予定

春の風物詩・上ノ原茅場の野焼き  
2017年4月29日(土)、30日(日)  
申し込み期限  
2017年4月10日(月曜日)

申込先 : <http://www.commonf.net/>

### 特徴的なとりくみ

- ・首都圏の都市住民が群馬県の草原保全活動を実施し、現代版の入会のしくみを作ることを目指している。
- ・キーワードは「飲水思源」(水源の地に、思いをはせて水を飲む)利根川でむすばれた上流部と下流部の住民が、群馬県みなかみ町・藤原地区にある元入会地の保全と活用に取り組み、40年間地元で途絶えていた野焼きが復活したり、茅を茅葺き材として販売したりしている。

### メモ欄

#### これまでの調査・研究のとりくみ

- ・周辺の昆虫相の把握(12目138科683種):未発表
- ・群馬県みなかみ地域におけるミズナラ林伐採後の草原性植物の動態 植生学会第20回大会
- ・Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands (Koyama et al. 2016 Applied Vegetation Science 20(1))

森林塾ホームページ <http://www.commonf.net/>



# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 野焼き

- ・面積: 2ヘクタール
- ・実施時期: 4月下旬
- ・参加者: ボランティア, 市町村, 研究者, 地域住民 (50-100人)

### 草刈り

- ・面積: 1-5ヘクタール
- ・実施時期: 7月, 10月 (年2回)
- ・参加者: ボランティア, 研究者, 地域住民 (10-50人)
- ・活動の担い手 若:中:壮:老 = 1:1:3:5 (50人くらい不足)

### 草原の概況

- ・山地または丘陵地
- ・ススキ群落 (1960年ころまでは草原だったが管理放棄後に藪化が進んだため2003年頃から管理を再開)
- ・管理目的: 希少種の保全, 生物多様性の保全, 景観の保全, 草資源の確保, 文化の継承
- ・その他の活動: 侵入ぼうの除去, ススキの移植, 自然観察の場, 学術研究の調査地
- ・活動資金: 自治体の助成金, 民間の助成金, 組織の予算 計50-100万円 (50万円ほど不足)

## ■ 研究者の参画について

現状: 3グループの研究者が参加している (保全活動にも参加: 2, 継続利用: 2, 一時利用: 3)

- ・研究者の専門分野: 植物, 昆虫
- ・多様性保全への貢献度をデータ化したいので, 研究者の参加は希望しない

## ■ 総合的な評価と課題

- ・多少の問題点はあるものの比較的うまくいっている
- ・保全にかかわる参加者の減少, 特に若い参加者が少ないこと.
- ・野焼きの方法についての合意形成ができていない.

## 5. 菅生沼



### 基本情報

草原の場所	茨城県 常総市 菅生沼
草原の名称	菅生沼
草原の主な植生	オギ・ヨシ
草原の広さ	野焼きをしているのは1~5ヘクタール
活動団体	ミュージアムパーク茨城県自然博物館
設立年	1994年 博物館の設立年)
草原の維持活動開始年	2003年

### 今後の活動予定

タチスミレを観察しよう  
2017年5月21日(日)  
申し込み期限  
平成29年4月30日(日)

申込先: 博物館HPに記載

### 特徴的なとりくみ

- ・タチスミレをはじめとする菅生沼に生育する絶滅危惧種を保全するために、博物館が主体となり野焼きを実施している。
- ・自然観察会のフィールドとして活用しているほか、野焼きがタチスミレに及ぼす効果を継続的に測定している。

### メモ欄

#### これまでの調査・研究のとりくみ

- ・茨城県菅生沼における火入れがオギ二次草原のタチスミレに及ぼす影響(澤田ら, 2010 ランドスケープ研究, 3:11-15.)
- ・タチスミレ群落における火入れの効果(日本生態学会第51回全国大会)
- ・茨城県菅生沼での火入れがオギならびに二次草原の種多様性に与える影響(日本生態学会第51回全国大会)

茨城県自然博物館ホームページ: <https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/index.html>

# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 野焼き

- ・面積: 1-5ヘクタール
- ・実施時期: 1月下旬
- ・参加者: ボランティア, 研究機関, 地域住民, イベント参加者 (約200人)
- ・参加団体: 菅生沼を考える会, 七郷里山会, 菅生沼に親しむ会, 菅生沼環境整備協議会, 自然友の会, すみれの集い, 筑波環境フォーラム, 筑波大学, 岐阜大学, 東邦大学, 自然博物館ボランティア ほか
- ・活動の担い手の構成: 若:中:壮:老 = 2:2:3:3

### 草原の概況

- ・湿地 (菅生沼は日本でも最大級のタチスミレ群落がある)
- ・オギ群落, ヨシ群落 (1998年までは地元の個人が環境整備の目的で草刈り・野焼きを実施していたが, その後放棄されたので2003年から管理を再開)
- ・管理目的: 希少種(タチスミレ, ハナムグラ, トネハナヤスリ, エキサイゼリなど)の保全
- ・その他の活動: 自然観察会, 学術研究
- ・活動資金: 組織の予算 計 数万円

## ■ 研究者の参画について

現状: 2グループの研究者が参加している(保全活動にも参加:10, 継続利用:2, 一時利用:5)

- ・研究者の専門分野: 植物, 土壌, その他
- ・生態学的な観点から湿地の絶滅危惧種保全に関する知見を効率よく得るために, 研究者の参加を希望する.

## ■ 総合的な評価と課題

多少の問題点はあるものの比較的うまくいっている

- ・行政や地域住民主体で活動できるシステムではないので, 博物館が主導できなくなったときに保全活動の危機となる.
- ・博物館の主体も組織ではなく職員個人の色が強いので, 事業の引き継ぎが課題となる.

## 6.荒川大麻生公園



### 基本情報

草原の場所	埼玉県 熊谷市
草原の名称	荒川大麻生公園
草原の主な植生	礫河原の草本植物群落
草原の広さ	5ヘクタールくらい
活動団体	埼玉県生態系保護協会
設立年	1992年
草原の維持活動開始年	2006年

### 今後の活動予定

春の花たんけんウォーク  
2017年4月9日(土)

申込先:埼玉県生態系保護協会  
TEL:048-645-0570

### 特徴的なとりくみ

- ・荒川河川敷に広がる草原でカラワナデシコ・カワラヨモギ・カワラハハコ・カワラサイコなど、減少の著しい河原特有の希少な植物の生育地となっている。
- ・地域の自然を保全するためにハリエンジュをはじめとする外来種駆除にも力を入れている。

### メモ欄

#### これまでの調査・研究のとりくみ

河川敷における洪水と草地への火入れがハリエンジュ *Robinia pseudoacacia* L. の種子発芽に及ぼす影響  
(川西ら, 2010 保全生態学研究, 15(2):231-240.)

埼玉県生態系保護協会ホームページ: <http://www.eco-saitama.or.jp/index.html>  
荒川大麻生公園 公園ブログ: <http://arakawaoosoupark.blog69.fc2.com/>

# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 野焼き

- ・面積: 5ヘクタール
- ・実施時期: 1月中下旬
- ・参加者: 協会員など (30人)

### 草刈り

- ・面積: 1.8ヘクタール
- ・実施時期: 4-10月 (50回)
- ・実施主体: ボランティア, 協会員 (20人)
- ・協力団体: エコパークボランティア, 熊谷商業高校
- 活動の担い手の構成: 若:中:壮:老 = 5:0:4:1

### 草原の概況

- ・河川敷丸石河原
- ・礫地の草本植物群落
- ・管理目的: 希少種(カワラナデシコ, カワラサイコ, カワラヨモギ, イヌハギ)の保全, 生物多様性の保全
- ・その他の活動: 外来種の駆除, 清掃活動
- ・活動資金: 民間の助成金, 指定管理費 計数万円

## ■ 研究者の参画について

現状: 3グループの研究者が参加している(保全活動にも参加:1, 継続利用:0, 一時利用:2)

- ・研究者の専門分野: 植物, 動物, 昆虫
- ・河原植物の保全にとって洪水と火入れとで効果が違うのか知りたいため研究者の参加を希望する

## ■ 総合的な評価と課題

うまくいっていないが継続していく

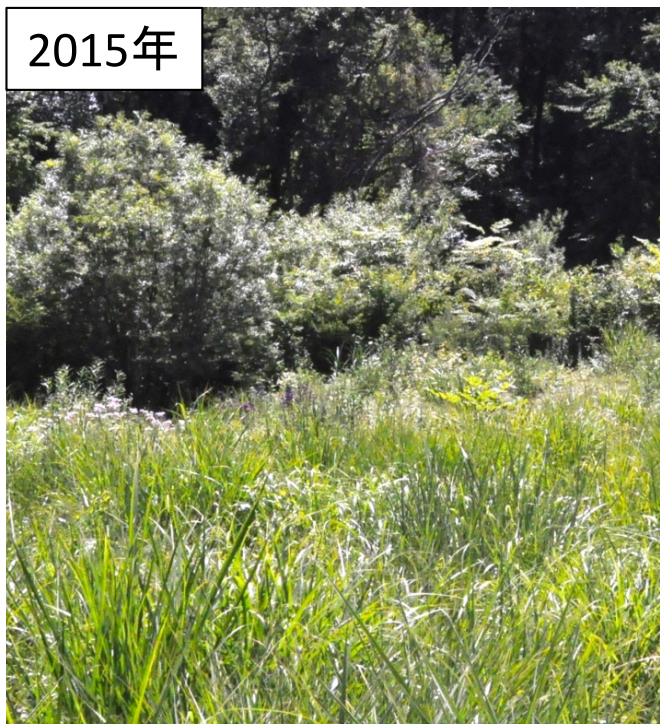
- ・洪水と異なり火入れできるのは限られた区域においてシナダレスズメガヤの草地化とニセアカシアの樹林化が進んでいる.
- ・カワラナデシコ特有のゾウムシが発生しており、食害を受けている.

## 7.三ツ石サイト

2008年



2015年



### 基本情報

草原の場所	長野県 軽井沢町
草原の名称	三ツ石サイト
草原の主な植生	2008年まで :カラマツ 現在 :ススキ
草原の広さ	0.5ヘクタール
活動団体	軽井沢サクラソウ会議
設立年	2000年
草原の維持活動開始年	2008年

### 今後の活動予定

特に予定はありません

興味がある方は  
軽井沢サクラソウ会議まで  
連絡してください

### 特徴的なとりくみ

- ・2008年の台風で発生したカラマツ人工林の風倒地において、倒木を除去し、草原の再生実験を行っている。
- ・草原再生地では当初はススキはまったく見られなかったが、現在ではススキが優占している。
- ・地域の自然観察のフィールドとしても活用されている。

### メモ欄

これまでの調査・研究のとりくみ

- ・とくになし

軽井沢サクラソウ会議ホームページ : <http://www.sakuraso.org/>

# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 草刈り(三ツ石サイト)

- ・面積: 0.3ヘクタール
- ・実施時期: 8月 (1年1回刈りと2年1回刈りの2区画)
- ・実施主体: ボランティア, 研究者 (約10人)

### 草刈り(大日向サイト)

- ・面積: 0.15ヘクタール
- ・実施時期: 10月 (1年1回刈り)
- ・実施主体: ボランティア, 研究者 (約10人)
- 活動の担い手の構成: 若:中:壮:老 = 0:0:9:1 (20人くらい不足)
- ・自分の草刈り機やチェーンソーを使える若い人と、刈ったススキを利用してくれる人の参加を希望

### 草原の概況

- ・三ツ石サイト: 山地または丘陵地(カラマツ林風倒跡地)  
ススキ群落(2007年に台風で倒壊したカラマツ林を2009年から草刈りによって管理)
- ・大日向サイト: 山地または丘陵地(アカマツ林の防火帯)  
ススキ群落(樹林化が始まっていた管理の悪い防火帯を2008年から草刈りによって管理)
- ・管理目的: 再草原化実験
- ・その他の活動: 自然観察会, 学術研究,  
レジャースポット(来年度から自然観察ピクニックを計画中)
- ・活動資金: ポケットマネー, 組織の予算 計1万円

## ■ 研究者の参画について

現状: 3グループの研究者が参加している(保全活動にも参加:2, 継続利用:2, 一時利用:1)

- ・研究者の専門分野: 植物
- ・植物の名前や生態, 草刈りの意義, 他団体の情報,  
学問的価値などを教えてくれる研究者の参加を希望する

## ■ 総合的な評価と課題

多少の問題点はあるものの比較的うまくいっている, うまくいっていないが継続していく

- ・草刈りの人手不足、特に若い世代の参加が少なく参加者の高齢化が進んでいること
- ・繰り返し草刈りに参加する人が増えない
- ・行政, 会員, 地域住民に, 半自然草原の意味, 草刈りの意義や成果などの情報が伝わっていない
- ・他団体との協働で草刈りをしたいが, 現状では刈り残したススキを別団体が刈って運び出しているだけ
- ・この実験の結果, 5年あまりで森林化すると推定され, 半自然草原を維持し拡大したいが,  
管理を継続できるか不安
- ・三ツ石サイト周辺の森林整備を予定している上智大学と連携したいが, 可能か否か不安
- ・軽井沢に半自然草原が増えていく見通しは無い
- ・草刈りにより生物多様性の高いススキ草原が復活できるということを実体験として得られた
- ・会員の集まれる場所がほしい

## ■ この集会でアドバイスがほしい

- ・地域住民をも巻きこんだ楽しい企画を作りたいと思っているが, 計画中のピクニック以外の楽しみ方があれば教えてほしい.
- ・研究者と協働することは有意義だと思うが, 草刈り活動の面で地域住民と協力していく方法を探ることが不十分だった.
- ・自然環境の保全のために, 地域住民に研究成果とは別に半自然草原の美しさ, 楽しさ, 意義を理解してもらう方法を知りたい.
- ・地域の人達が感じている町の問題点と, 自然環境の問題点とのすり合わせをして, 活動内容を見直していく必要があると思う.
- ・焦らず少しだけでも前進したとおもえるような活動をしていきたいし, 次世代に活動内容を引き継ぎたい.

## 8. 牧の入茅場



### 基本情報

草原の場所	長野県 小谷村 千国
草原の名称	牧の入茅場
草原の主な植生	ススキ・カリヤス
草原の広さ	10ヘクタール以上
活動団体	特になし
設立年	—
草原の維持活動開始年	— (100年以上前から草原として維持)

### 今後の活動予定

特になし

### 特徴的なとりくみ

- ・茅葺き材として重宝されているカリヤスの草原があり文化庁「ふるさと文化財の森」に設定されている。
- ・現在でも茅葺き業者の茅場として利用されており、最近では一般向けの茅刈り研修等も開催されている。

### メモ欄

### これまでの調査・研究のとりくみ

- ・長野県小谷村に残る伝統的茅場の植物相(池谷・井田2008 信州大学教育学部附属志賀自然教育研究業績 45号)



# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 野焼き

- ・面積: 10ヘクタール以上
- ・実施時期: 4月 下旬
- ・実施主体: 地域住民 (50-100人)

### 草刈り

- ・面積: 5-10ヘクタール
- ・実施時期: 10月 月上旬 (1年1回刈り)
- ・実施主体: 地域住民, 茅葺き職人 (10人以内)

### 草原の概況

- ・山地または丘陵地  
ススキ群落, カリヤス群落 (100年以上前から草原として維持されてきた)
- ・管理目的: 草資源の確保
- ・その他の活動: 外郭団体主催の茅刈り, 茅葺きワークショップ, 学術研究など
- ・活動資金: 詳細不明

## ■ 研究者の参画について

現状: 1グループの研究者が参加している

- ・研究者の専門分野: 植物

## ■ 総合的な評価と課題

多少の問題点はあるものの比較的うまくいっている, うまくいっていないが継続していく

## 9.麻機遊水地



### 基本情報

草原の場所	静岡県 静岡市 葵区 野丈
草原の名称	麻機遊水地
草原の主な植生	ヨシ
草原の広さ	1ヘクタール未満
活動団体	麻機遊水地保全活用推進協議会
設立年	2004年
草原の維持活動開始年	2010年ごろ

### 今後の活動予定

HPに随時公開予定

### 特徴的なとりくみ

- ・自然再生協議会を立ち上げ、「生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機」を目指し、良好な生態系(環)、里地里山環境にあった人と自然との共生(和)、周辺の自然とのつながり(輪)をとりもどす活動を展開している。
- ・2016年より効果的・効率的な植生管理手法を確立することを目的として、小面積ながら、新たに実験的に野焼きを実施している。

### メモ欄

これまでの調査・研究のとりくみ

麻機遊水地保全活用推進協議会ホームページ：<http://asabata.org/>

# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 野焼き

- ・面積: 1ヘクタール未満
- ・実施時期: 1月下旬
- ・参加者: ボランティア, 市町村, 研究者, 地域住民, 麻機遊水地保全活用推進協議会 (30人)
- ・協力団体: 麻機学区自治会連合会, 常北学区自治会連合会 (降灰の恐れがあるために連絡強化)

### 草原の概況

- ・湿地
- ・ヨシ群落 (70年前ころまでは浅畑沼があり, その後水田として30年前ころまで利用したが, 放棄された)
- ・管理目的: 希少種の保全 (ヌカボタデ), 生物多様性の保全
- ・その他の活動: 外来種駆除, 清掃活動, 自然観察会  
企業の新入社員研修で水田整備や清掃活動を実施しているが, 期間限定なので通年参加できる人が必要.  
支援学校の生徒との連携活動を活性化するために指導者を確保したい.  
20メートル四方の範囲でヤギを使った除草実験をおこなっている.
- ・活動資金: ポケットマネー, 民間の助成金 計100万円以上 (3000万円ほど不足)

## ■ 研究者の参画について

現状: 3グループの研究者が参加している (保全活動にも参加: 2, 一時利用: 1)

- ・研究者の専門分野: 植物, 両生・は虫類
- 以下の理由により研究者の参加を希望する
- ・協議会委員のスキルアップ
- ・科学的評価等が不足しているため, 科学的知見の蓄積, 取り組みの評価, 検証等で支援して欲しい.
- ・大学生等の若い人材の参加が少ないため, 研究者と連携することで学生とも連携できることが期待される.
- ・現在協議会には, 植物, 野鳥, 昆虫, 両生類・爬虫類の各分野の専門家が1名ずつ参加しているが, 各分野で2名程度は研究者が参加していれば, 様々な議論ができると考えている.
- また, 魚類の専門家もいないため, 魚類に関する研究者も参加を期待している。

## ■ 総合的な評価と課題

多少の問題点はあるものの比較的うまくいっている

- ・活動をしている遊水地は面積が広いため, 市民ボランティアだけでは植生遷移や外来種の拡大を抑制することが難しい.
- ・保全活動は, 基本的には除草や耕耘など活動自体に楽しみが少ないため参加者が増加しない.
- ・遊水地内の動植物の保全に関心がある方と, 遊水地内の利活用に興味のあるかたとの調整が難しい.

## ■ この集会でアドバイスをほしい

- ・外来植物の駆除の成功事例
- ・活動資金や人材の確保の方法

## 10. 下総の牧 (集会当日の配布資料には掲載されていない)



### 基本情報

草原の場所	千葉県 白井市 谷田, 千葉県 印西市 武西
草原の名称	谷田地区, 武西地区
草原の主な植生	シバ, ススキ, オギ, ヨシ
草原の広さ	5-10ヘクタール
活動団体	特定非営利活動法人 谷田武西の原っぱと森の会
設立年	2009年(2010年法人格取得)
草原の維持活動開始年	2009年

### 今後の活動予定

HPに随時公開予定

### 特徴的なとりくみ

- ・千葉県白井市谷田・印西市武西にまたがる、約25haの、もと千葉県企業庁開発除外地が活動フィールドです。湧水、樹林地、草地がまとまって残されており、タイムカプセルをあけたように多様な生きものの姿を見ることができます。
- ・明治時代まで数百年の間、野馬を放牧する牧が広がっていた場所で、観察できる希少種の多くはかつての牧の草地にあったものです。これらの環境を保全するため、私たちは立入の許可をいただきながら活動しています。

### メモ欄

これまでの調査・研究のとりくみ

谷田武西原っぱと森の会ホームページ: <http://harappanokai.web.fc2.com/>

# 草原の保全活用に関するアンケート結果

## ■ 草原の維持活動について

### 草刈り

- ・面積: 5-10ヘクタール
- ・実施時期: 夏と秋
- ・参加者: ボランティア (10-50人)
- ・協力団体: 東邦大学

### 草原の概況

- ・平地と湿地(現在は草原だが100年前から数十年ほど前までは森林・やぶ・草原が混在. さらに前は牧野利用)
- ・シバ群落, ススキ群落, オギ群落, ヨシ群落
- ・管理目的: 希少種の保全, 生物多様性の保全, 景観の保全
- ・その他の活動: 外来種駆除, 清掃活動, 自然観察会, 学術研究
- ・活動資金: 民間の助成金, 組織の予算 計10-50万円

## ■ 研究者の参画について

現状: 3グループの研究者が参加している(保全活動にも参加:2, 継続的に利用:2 一時利用:1)

- ・研究者の専門分野: 植物, 動物 今以上の研究者の参加を希望する

## ■ 総合的な評価と課題

多少の問題点はあるものの比較的うまくいっている

- ・都市環境の里山なので常に開発の圧力がある.
- ・保全作業で汗をながす人手を確保するための仕組みが必要.
- ・生物多様性と人とのかかわりのちょうど良い関係を構築していきたい.

# 情報提供していただいた各草原再生地の現状一覧

名称・通称	寒風山	安比高原	土呂部	上ノ原	菅生沼	大麻生公園	三ツ石サイト	牧の入茅場	麻織遊水地	北総 (追加)
所在地	秋田県男鹿市 草原が維持されてきた火山	岩手県八幡平市 山地の斜面	栃木県日光市 山地の斜面	群馬県みなかみ町 山地の斜面	茨城県常総市 湿地	埼玉県熊谷市 河川敷	長野県軽井沢町 台風の風倒跡地	長野県小谷村 山地の斜面	静岡県静岡市 湿地	千葉県白井市・ 印西市 平地と湿地
フィールドの特徴	シバ群落、シバ群落、ササ群落	シバ群落、ススキ群落、ササ群落	ススキ群落	ススキ群落	オギ群落、ヨシ群落	磯河原の草本植物群落	ススキ群落	ススキ群落、カリヤス群落	ヨシ群落	シバ群落、ススキ群落、オギ群落、ヨシ群落
広さ	130ヘクタール	数ヘクタール	2ヘクタール	2ヘクタール	数ヘクタール	5ヘクタール	0.5ヘクタール	数10ヘクタール	0.1ヘクタール	5-10ヘクタール
管理形態	野焼き、草刈り	野焼き、草刈り、放牧	草刈り	草刈り、野焼き	野焼き	野焼き	草刈り	野焼き、草刈り	野焼き	草刈り
活動目的	希少種の保全	○	○	○	○	○			○	○
	保全対象種		オキナグサ、キキョウ	コウリンカ、セイトカトウヒレン、キセウタ等		タチスミレ、ハナムグラ、トネハナヤスリ等	カワラナデシコ、カワラサイコ、カワラヨモギ等		スカボタデ	
	生物多様性の保全		○	○	○	○	○		○	○
	景観の保全	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	草資源の確保		○	○	○	○	○	○		
	文化の継承		○	○	○	○	○	○		
	その他									
内容							再草原化実験			
外來種駆除	清掃活動									
	観察会等の環境学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	学術研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	レジャースポット	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	その他	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容	ワラビ採り		シカ被害防止柵の設置、枯れ草の焼却、遊歩道整備など	侵入樹木の伐採				茅に関連するワークシヨップなど	ミシッピアカミミガメの駆除、水田整備、伝統漁法による漁、埋土種子調査	
	自己評価	うまくいっていない	うまくいっていない	うまくいっていない	比較的良好	比較的良好	比較的良好	比較的良好	比較的良好	比較的良好
内容	自治体による野焼きが中止された		参加者による草の分断化、所有者の世代交代	参加者の高齢化と減少、野焼き方法についての合意形成ができていない	参加者や住民の手で活動が継続されるシステムになっていない。	シナダレスズメガヤ、ニセアカシアの繁茂、カワラナデシコのソウムシ被害	人手不足、高齢化、参加者の停滞、情報の伝達不足など	茅に開連するワークシヨップなど	面積が広すぎる、楽しみが少ないなど	常に開発区にさらされる人での不足。
	参加グループ数	1	2	3	2	3	3	1	3	3
保全活動参加者数	0	3	1	2	10	1	2	2	2	2
要・不要	○	○	x	○	○	○	○	○	○	○